

行政支援研究

休業 4 日以上と 4 日未満の死傷災害の比較

報告書

平成 22 年 3 月

独立行政法人労働安全衛生総合研究所

## 目 次

1. 調査の目的 .....	1
2. 平成 21 年度調査 .....	1
3. 平成 20 年度調査 .....	10
4. まとめ .....	16

### 【資料編】

休業4日未満労働災害データ .....	20
---------------------	----

## 1. 調査の目的

休業4日未満と休業4日以上労働災害の比較・分析等を行い、休業4日未満の労働災害の特徴等を見出す。

## 2. 平成21年度調査

### (1) 使用データ

#### 休業4日未満労働災害データ（労働者死傷病報告より）

下表のとおり、4つの労働局から入手した平成20年のデータを用いた。

表 休業4日未満労働災害データ（平成20年）

	休業4日未満負傷者数
岩手労働局	311
東京労働局	1,888
静岡労働局	393
大分労働局	287
	2,879

#### 休業4日以上労働災害データ

##### a. 中央労働災害防止協会公表データ（災害統計データ）

中央労働災害防止協会HPに公表されている平成20年の労働災害統計データ（全国）を用いた。

##### b. 労働者死傷病報告データ

上記①は統計データのため、労働災害発生状況が不明であることから、下表のとおり、昨年度入手した3つの労働基準監督署の平成18年データを使用した。

表 休業4日以上労働災害データ（平成18年）

	休業4日以上死傷者数
向島	606
八王子	665
池袋	928
合計	2,199

### (2) データの分析方法

労働者死傷病報告に記載されている休業4日未満労働災害のデータ項目は、下表のとおりである。これらの他、一部の休業4日未満労働者死傷病報告は、休業4日以上の死傷病報告に似た様式に記載され、別のデータ項目も記載されているが、これらは除外した。

データ分析は被災者年齢別分析から行った。次に、傷病部位等（熱中症、一酸化炭素・酸素欠乏症含む）データから、傷病部位等別にデータを分類・整理し、休業4日以上労働災害と比較し、休業4日未満労働災害の特徴を抽出した。

傷病部位データについては、休業4日以上は労働者死傷病報告職員記入欄の「傷病部位」データを用い、一方、休業4日未満は「傷病名または傷病部位」データを用い、傷病部位が不明なものについては推測、推測が難しいものは不明扱いにした。

表 労働者死傷病報告の記載データ

1. 事業場情報
①事業の種類
②名称（建設業は工事名併記）
③所在地
④電話番号
⑤労働者数
2. 被災者情報
①指名
②性別
③年齢
④職種
⑤派遣労働者がどうか
⑥傷病名または傷病部位
⑦休業日数
3. 災害発生状況
①災害発生年月日
②災害発生状況

今回の使用データは、休業4日未満労働災害を対象とした労働者死傷病報告は提出率が低いことから、企業や業種等によるデータの偏りがあることに留意する必要がある。

ただ、一定以上のデータ数を使用して分析しているので、その中から、頻発する労働災害を抽出することなどにより、休業4日未満労働災害の特徴を見出すことができる。

### (3)休業4日未満労働災害の特徴

#### 被災者年齢別

休業4日未満労働災害の発生状況を被災者年齢別にみると、10代と20代を併せた発生割合は28.3%に及び、休業4日以上（全国）の17.2%と比べ11ポイントも高い。

逆に、休業4日未満の50歳以上は26.0%と、休業4日以上（全国）の44.2%と比べ18ポイントも低くなっている。

表 被災者年齢別労働災害発生状況

年齢	休業4日未満		休業4日以上 (3労基署H18)		休業4日以上(全国) (中災防H20)	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
10代	102	3.6	54	2.5	2,765	2.1
20代	708	24.7	363	16.5	19,506	15.1
30代	776	27.1	489	22.3	25,658	19.9
40代	531	18.6	345	15.7	24,049	18.6
50代	489	17.1	543	24.7	33,764	26.2
60代	230	8.0	362	16.5	23,284	18.0
70歳以上	25	0.9	41	1.9		
小計	2,861	100.0	2,197	100.0	129,026	100.0
不明	18		2			
合計	2,879		2,199		129,026	

#### 傷病部位等別

休業4日未満負傷者数と休業4日以上死傷者数を傷病部位等別に比較した表を次頁に示す。これを基に、休業4日未満と休業4日以上の災害を比較した結果を以下に示す。

- ・「眼」の傷病部位別構成割合は、休業4日未満は3.5%と、休業4日以上1.3%と比べ高い。
- ・「頭蓋部」は、休業4日以上が1.7%を占めるが、休業4日未満は0である。一方、「頭部他」は休業4日以上が4.2%に対し、休業4日未満は8.4%と高い。これは、「頭部他」の災害は、「頭蓋部」にまで損傷が及ばない比較的軽度なものが多いと考えられる。
- ・「頭蓋部」と同様のことが「骨盤」にもいえる。「骨盤」は休業4日以上が4.2%を占めるが、休業4日未満は0.2%程度にとどまっている。
- ・「顔面部他」は、休業4日未満は5.9%と、休業4日以上の0.5%と比べ著しく高い。
- ・「手首」、「上膊」、「胸部」は、休業4日以上がそれぞれ3.8%、1.3%、4.3%を占めているが、休業4日未満はそれぞれ1.6%、0.4%、1.8%にとどまっている。

表 休業4日未満と4日以上の死傷者数の比較（傷病部位別）

傷病部位	傷病部位(統合)	休業4日未満 (H20:東京、静岡、大分、岩手)				休業4日以上 (H18:向島、池袋、八王子)			
		人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
眼	眼	101	3.5	101	3.5	29	1.3	29	1.3
口	口	5	0.2	5	0.2	4	0.2	4	0.2
耳	耳	6	0.2	6	0.2	3	0.1	3	0.1
鼻	鼻	13	0.5	13	0.5	0	0.0	0	0.0
歯	歯	12	0.4	12	0.4	0	0.0	0	0.0
頭蓋部	頭蓋部	0	0.0	0	0.0	38	1.7	38	1.7
頭部	頭部他	156	5.4	242	8.4	4	0.2	92	4.2
頭部中の複合部位		2	0.1			11	0.5		
頭部または顔面部の負傷による 頭蓋内疾患		0	0.0			0	0.0		
頭部と頭部		14	0.5			0	0.0		
頭部と頭部、肢体		6	0.2			0	0.0		
頭部と頭部、胴体		7	0.2			0	0.0		
頭部と胴体、頭部と肢体		15	0.5			77	3.5		
頭部と胴体		22	0.8			0	0.0		
頭部と肢体		20	0.7			0	0.0		
顔	顔面部他	89	3.1	169	5.9	11	0.5	12	0.5
顔面部の複合部位		8	0.3			0	0.0		
顎		8	0.3			0	0.0		
顔面部と頭部		5	0.2			1	0.0		
顔面部と頭部、肢体		3	0.1			0	0.0		
顔面と胴体、顔面と肢体		8	0.3			0	0.0		
顔面と胴体		10	0.3			0	0.0		
顔面と肢体		32	1.1			0	0.0		
顔面と頭部		6	0.2			0	0.0		
頸部	頸部他	70	2.4	114	4.0	67	3.0	68	3.1
頸部と肢体		10	0.3			0	0.0		
頸部と胸部		2	0.1			0	0.0		
頸部と肢体、胴体		11	0.4			0	0.0		
頸部と胴体		21	0.7			1	0.0		
手	手	127	4.4	127	4.4	76	3.5	76	3.5
指	指	573	19.9	573	19.9	386	17.6	386	17.6
手首	手首	45	1.6	45	1.6	84	3.8	84	3.8
ひじ	ひじ	32	1.1	32	1.1	25	1.1	25	1.1
前膊	前膊	48	1.7	48	1.7	26	1.2	26	1.2
上膊	上膊	11	0.4	11	0.4	29	1.3	29	1.3
腕	腕	28	1.0	28	1.0	8	0.4	8	0.4
上肢中の複合部位	足	12	0.4	666	23.1	30	1.4	780	35.5
足		178	6.2			285	13.0		
足首		108	3.8			144	6.6		
足指		106	3.7			97	4.4		
ひざ		77	2.7			131	6.0		
もも		6	0.2			46	2.1		
すね		27	0.9			16	0.7		
下肢大腿部(股関節を含む)		53	1.8			3	0.1		
下肢下腿部		50	1.7			1	0.0		
下肢中の複合部位		29	1.0			26	1.2		
下肢で部位不明のもの		20	0.7			1	0.0		
胴体と肢体	胴体と肢体	0	0.0	77	2.7	52	2.4	52	2.4
上肢と胴体		25	0.9			0	0.0		
下肢と胴体		35	1.2			0	0.0		
上肢と下肢、胴体		17	0.6			0	0.0		
上肢と下肢	上肢と下肢	40	1.4	40	1.4	35	1.6	35	1.6
肩	肩	40	1.4	40	1.4	48	2.2	48	2.2
胸部	胸部	51	1.8	51	1.8	95	4.3	95	4.3
背部	背部	18	0.6	18	0.6	35	1.6	35	1.6
腹部	腹部	24	0.8	24	0.8	14	0.6	14	0.6
腰部(腰椎などを含む)	腰部(腰椎などを含む)	142	4.9	142	4.9	108	4.9	108	4.9
臀部(しり)	臀部(しり)	15	0.5	15	0.5	11	0.5	11	0.5
骨盤部	骨盤部	5	0.2	5	0.2	93	4.2	93	4.2
胴体中の複合部位	胴体中の複合部位	26	0.9	26	0.9	7	0.3	7	0.3
呼吸器系統	呼吸器系統	11	0.4	11	0.4	1	0.0	1	0.0
その他の複合部位	その他の複合部位	1	0.0	1	0.0	17	0.8	17	0.8
傷病部位不明のもの	傷病部位不明のもの	25	0.9	25	0.9	14	0.6	14	0.6
その他の一般的傷病	その他の一般的傷病	30	1.0	30	1.0	4	0.2	4	0.2
一酸化炭素中毒、硫化水素中毒	一酸化炭素中毒、硫化水素中毒	17	0.6	17	0.6	2	0.1	2	0.1
熱中症(脱水症等を含む)	熱中症(脱水症等を含む)	154	5.4	154	5.4	1	0.0	1	0.0
酸欠	酸欠	1	0.0	1	0.0	0	0.0	0	0.0
食中毒	食中毒	7	0.2	7	0.2	0	0.0	0	0.0
過労	過労	1	0.0	1	0.0	0	0.0	0	0.0
小計		2877	100.0	2,877	100.0	2197	100.0	2197	100.0
不明		2		2		2		2	
合計		2879		2879		2199		2199	

- ・「一酸化炭素中毒・硫化水素中毒」は休業4日未満が0.6%を占めるが、休業4日以上は0.1%しかない。
- ・「熱中症（脱水症等を含む）」は休業4日未満が5.4%を占めるが、休業4日以上は0.0%しかない。全国データ（平成20年休業4日以上死傷者数）でみても、熱中症を含む「高温・低温の物との接触」は2,692人と、全死傷者数129,026人の2.1%程度にとどまっており、休業4日未満の「熱中症（脱水症等を含む）」の発生割合は高いといえる。
- ・「一酸化炭素中毒・硫化水素中毒」、「熱中症」による労働災害の防止を検討するには、これら休業4日未満のデータが有効になる可能性がある。

表 事故の型別休業4日以上死傷者数（全国）

	休業4日以上死傷者 （全国）	
	死傷者数	構成比
墜落・転落	22,379	17.3
転倒	24,792	19.2
激突	6,019	4.7
飛来・落下	8,552	6.6
崩壊・倒壊	2,859	2.2
激突され	6,002	4.7
はさまれ・巻き込まれ	18,439	14.3
切れ・こすれ	10,707	8.3
踏み抜き	257	0.2
おぼれ	41	0.0
高温・低温の物との接触	2,692	2.1
有害物等との接触	527	0.4
感電	149	0.1
爆発	119	0.1
破裂	83	0.1
火災	107	0.1
交通事故（道路）	8,795	6.8
交通事故（その他）	127	0.1
動作の反動・無理な動作	14,615	11.3
その他	1,417	1.1
分類不能	348	0.3
合計	129,026	100.0

a .「頭」

（休業4日未満特有災害）

- ・ワゴン車等の最後部ドアを閉める時、風などにより自然に最後部ドアが閉まった時、ドアに頭をぶつける災害がとても多い。軽四トラック、ライトバン、ワゴン車の最後部ドアである。宅配業務、郵便業務、各種営業で、最後部ドアを閉めた本人自らの頭をぶつ

けたものや、隣にいた仲間の頭をぶつけてしまったものもある。最後部ドアの他にも、トラック荷台の扉等に頭をぶつけた事例もある。

- ・各種作業中、いろいろなところに頭をぶつけ被災している事例が多い。特に、清掃作業中、柱、キャビネット、階段等に頭をぶつける災害が多く見受けられる。しゃがんで作業をしていて立ち上がる時にぶつけるケースもある。清掃作業の他には点検・検査中の災害も多い。ぶつけた場所としては、ベルトコンベア、排気ダクト、電気設備（変電器）、ひさし、突起棚、看板、蛍光灯、低い天井、配管支えのアンクル等がある。
- ・人に殴られた災害も多く見受けられる。患者にたたかれた看護師、乗客に殴られたタクシー運転手、駅員等がある。

（休業4日未満、4日以上ともに多い災害）

- ・転倒して頭をぶつける災害が多い。特に、凍結路面に滑ったもの、濡れている床、洗剤、油、ワックスにより滑り転倒するものが多い。冷蔵倉庫内で滑ったものも複数例ある。その他、段差、荷につまずいたり、コードにひっかかったりして転倒している事例が見受けられる。
- ・階段の踏み外し、つまずき、すべりなどにより頭をぶつけた災害も多い。
- ・台車、パレットから荷が落下し被災したものも多い。その他、上から仮柱、鉄骨材、木づち、エアフィルター等が倒壊・落下して被災する例も少なくない。
- ・脚立からの墜落も多い。

## b. 「顔面部他」

（休業4日未満特有災害）

- ・自動ドアに激突した災害が数件ある。また、建築工事現場で、はめ込んだガラスに激突した事例もある。
- ・スズメバチ、アシナガバチ等の蜂に刺された災害も多い。これは顔面だけでなく、手、指、首も多い。

（休業4日未満、4日以上ともに多い災害）

- ・転倒して顔を強打するものが非常に多い。
- ・階段を踏み外すなどして顔を強打したもの、物が飛来・落下し顔に激突したものが多い。

## c. 「眼」

（休業4日未満特有災害）

- ・各種清掃作業中、洗剤、洗浄液が眼に入り被災するものがとても多い。洗浄液には、薄めた塩酸、油取りシンナー、エタノール等がある。この中には、保護メガネを着用していたにも関わらず被災した事例もある。これは、保護メガネを着用していたから軽度の負傷で済んだとの見方ができるが、一方で、現行の保護メガネでは完全に防護することができず改良が必要である可能性もある。



- ・建設工事においてコンクリート打設作業中、コンクリートやモルタルが眼に入ったものも数件見受けられる。
- ・伐採作業において、小枝を運搬中、小枝が目に入って被災するものが数件見受けられる。  
(休業4日未満・4日以上ともに多い災害)
- ・グラインダーでの研磨作業、鉄切断作業において鉄粉や鉄くずが目に入る。エアブロー作業中、金属塵が目に入る。金属加工作業中、加工液が目に入る。このような災害が見受けられるが、この中には保護メガネを着用していたにも関わらず被災した事例もある。
- ・鉄筋棒が眼にあたり被災する事例が数件ある。

#### d.「首」

(休業4日未満の災害)

- ・立木伐採中に枝が落下し首を負傷した事例、スズメバチに刺された事例などが数件見受けられる。  
(休業4日未満、4日以上ともに多い災害)
- ・車の衝突による頸椎ねんざが圧倒的に多い。

#### e.「手」

(休業4日未満特有災害)

- ・台車、パレット、ボックス、ロールボックスパレット等を用いて荷物運搬中、カーゴ運搬中、手を挟まれる災害が多い。某宅配事業者の労働災害データをみると、ロールボックスパレット（コールドボックスパレット含む）による災害が全体の30%近くを占めており、原因の究明、安全対策の検討が急務である。
- ・カッターナイフによる災害も多い。伝言メモ作成中、ひもを切ろうとして、郵便物の解束作業中、ベニヤ切断中、ダクト切断中等、カッターナイフで被災している。
- ・割れたガラスや陶器に触れて被災するものが多い。料理用グラス、ガラス製ティサーバー、井や皿が割れ、それに触れ被災している。
- ・スズメバチに刺され被災した事例が数件ある。
- ・感電災害が数件見受けられる。高圧電源の残留電荷に感電したもの、自動販売機のヒューズが欠損したため取替作業中（保護手袋せず、ブレーカー落とさず）、200Vに感電したものがある。平成20年の休業4日以上災害統計データによると、感電の死亡災害全体に占める割合は1.7%もあるものの、一方、休業4日以上死傷災害に占める感電の割合は0.1%と低く、感電災害は一旦被災すると死亡災害に直結しやすい。

(休業4日未満、4日以上ともに多い災害)

- ・火傷がとても多い。例えば、中華まん製造用電熱器に接触、卓上カセットコンロから引火、うどん屋ではねた熱湯に接触、若鶏唐揚げフライ中にはねた油に接触、バーナーで

熱したブリキ板に接触、揚げ物用フライヤー清掃中に油の中に手が入ってしまう、給湯で洗い物中に熱湯に接触、台車上に載せたスプーンが手に接触がある。

#### f. 「指」

(休業4日未満特有災害)

- ・カッターナイフによる災害が多い。幅木、ホース、段ボール梱包、引越用テープ、ベニヤ、石膏ボード、電気コード等を切断中に指を被災している。
- ・建物のドアを閉めた時に指を挟まれた災害も多い。自ら閉めた時であれば、風等により勝手に閉まった時もある。
- ・建物の他、自動車、ダンプ、金庫等のドアに挟まれたものもある。
- ・鉄板の端部等、金属製品の面取りしていない部分に触り被災している。
- ・顔等と同様、スズメバチ等の蜂に刺された災害が数件ある。
- ・動物、魚に指を噛まれる災害も数件見受けられる。漁師が鮫に噛まれる、畜産業者が牛に噛まれる等。
- ・病院で針がささる災害も数多い。抜糸した針等治療中の針、ゴミ袋の中に捨てられていた針、流台の洗浄用スポンジに混入していた針等に刺さり被災している。感染症に発展するおそれもある。

(休業4日未満、4日以上ともに多い災害)

- ・料理等で包丁を使っている時に、包丁で指を切る災害がとても多い。事例では、長ネギ、厚揚げ、果物、なす、カレー、いわし、野菜、海草、イカ等、様々なものを切っている時に被災している。かごの中の包丁、まな板に置いてあった包丁で被災するケースもある。
- ・ベルトコンベアに指を挟む災害も多い。ベルトコンベアに何か物が詰まり、ベルトコンベアを停止せずにそれを取り出そうとし被災するケースが数件ある。
- ・点検、修理のため機械の駆動部に手を入れ被災した災害も数件ある。
- ・段ボール搬送用ローラー等のローラーに手を入れ被災している災害も数件ある。ローラー間に異物が混入しそれを取り除こうとし被災している。
- ・食品加工器に付いている刃に接触し被災した事例も数多い。パンのスライサー、魚の皮むき器、冷凍魚の整形機、皮むき器、野菜裁断機等がある。
- ・機械清掃中、機械に指が挟まれた災害も少なくない。
- ・ハンマーで指を叩く災害も数件ある。

#### g. 「腰」

(休業4日未満、4日以上ともに多い災害)

- ・腰痛は休業4日未満、4日以上ともに頻発している災害である。4日以上になると、骨盤を損傷した災害が出てくるが、4日未満ではそれは見受けられない。

- ・腰痛災害の事例は以下のようなものがある。
  - 介護者（おむつ交換、ベットへの移動）、患者（よろめいた患者を支える）の介助時
  - 手荷物（段ボール、食品、ワイン等瓶、建設資材、原料、重量 8kg、15kg、25kg 他）  
運搬時
  - 荷物を持ち上げたとき、無理な体勢で材料を持ち上げたとき
  - 前屈み作業中
  - 前方にかがんだとき
  - 中腰で作業中
  - 脚立から降りるとき腰をひねる
  - 脚立から墜落し腰を打つ
  - 濡れた階段で転倒し腰を痛める
  - 転倒しまいと踏ん張って腰を痛める

## h.「足」

（休業 4 日未満特有災害）

- ・釘を踏む災害が多い。建設工事現場で栈木から出ていた釘を踏む、ベニヤからでていた釘を踏む、引越作業中に釘を踏む等がある。

（休業 4 日未満、4 日以上ともに多い災害）

- ・物が落下し足に直撃して被災する災害が多い。落下物としては、撮影機材、角材、治工具、ベビーベット柵、H鋼、鉄筋、廃材、管、荷物、ステンレス製桶等がある。
- ・歩行中に段差等によりつまずいたり転んだりして足を捻る災害が多い。
- ・荷物やゴミの運搬中、台車等に挟まれる災害が数件ある。
- ・脚立からの墜落、階段からの転落で足を痛める災害が数件ある。
- ・重機に挟まれる災害も数件ある。

### 3. 平成 20 年度調査

#### (1) 使用データ

##### 入手データ

以下の 3 つの監督署管轄地域における平成 18 年の労働災害データ。

表 労働災害データ（平成 18 年）

	休業 4 日以上	休業 4 日未満
向島	606	42
八王子	665	52
池袋	928	128
合計	2,199	221

##### 分析対象データ

休業 4 日未満データは、労働者死傷病報告の提出率が低いことから、業種等で偏りが見受けられる。このため、業種のかたよりを可能な限り小さくするため、①郵便業務、②建築工事（鉄骨・鉄筋コンクリート造家屋建築工事業およびその他建築工事業。建設業におけるその他、土木工事、木造家屋工事、機械器具設置工事等は除く）の 2 つの業種を対象とする。

①、②のデータ抽出方法を以下に示す。

①郵便業務 : 事業場名→「郵便局」で自動的に抽出

②建築工事 : 事業の種類、事業場名、工事名、職種から抽出（一部推測）

表 分析対象データ

	休業 4 日以上		休業 4 日未満	
	郵便業務	建築工事	郵便業務	建築工事
向島	17	65	10	11
八王子	36	70	6	16
池袋	36	99	31	35
合計	89	234	47	62

#### (2) データ項目の追加

比較分析を行うにあたり、休業 4 日未満は、休業 4 日以上と比べデータ項目が不足している。

このため、休業 4 日未満の災害発生状況を読み込み、以下、休業 4 日以上にある職員記入項目を休業 4 日未満に追記した（一部推測あり）。

- 事故の型（例：墜落・転落）
- 起因物（例：クレーン）
- 傷病性質（例：打撲傷）
- 疾病部位（例：腰部）

### (3) データの比較・分析

#### A．建築工事

##### 事故の型別

- ・休業4日以上は墜落・転落災害が最も多く 34.2%を占め、次いで、はさまれ・巻き込まれ 12.4%、激突され 9.8%、飛来・落下 9.4%、動作の反動・無理な動作 9.0%である。
- ・一方、休業4日未満は、高温・低温の物との接触（熱中症）が 17.7%と最も多い。次いで、墜落・転落 16.1%、転倒 12.9%、飛来・落下 12.9%、切れ・こすれ 11.3%である。
- ・休業4日以上と比較した休業4日未満の労働災害の特徴は、高温・低温の物との接触（熱中症）が著しく多いこと、切れ・こすれ災害、転倒災害の比率が高いことなどがあげられる。

表 建築工事 事故の型別

事故の型	休業4日未満		休業4日以上	
	人数	構成比	人数	構成比
墜落・転落	10	16.1	80	34.2
転倒	8	12.9	19	8.1
激突	2	3.2	10	4.3
飛来・落下	8	12.9	22	9.4
崩壊・倒壊	2	3.2	3	1.3
激突され	1	1.6	23	9.8
はさまれ・巻き込まれ	4	6.5	29	12.4
切れ・こすれ	7	11.3	16	6.8
踏み抜き	0	0.0	1	0.4
高温・低温の物との接触	11	17.7	2	0.9
有害物との接触	0	0.0	3	1.3
感電	1	1.6	1	0.4
火災	1	1.6	1	0.4
交通事故	1	1.6	2	0.9
動作の反動・無理な動作	4	6.5	21	9.0
その他	2	3.2	1	0.4
合計	62	100.0	234	100.0

### 起因物別

- ・事故の型ごとに起因物をみると、墜落・転落災害、切れ・こすれ災害に特徴的な傾向が見受けられる。

#### a) 墜落・転落災害の特徴

- ・墜落災害は、休業4日以上計80人うち、はしご等からの墜落が31人と最も多く、38.8%を占めている。次いで、足場からの墜落15人で19%を占めている。
- ・一方、休業4日未満計10人のうち、足場からの墜落が5人、50%と最も多い。1.5m程の低所からの墜落が見受けられる。はしご等からの墜落は1人とどまっている。

#### b) 切れ・こすれ災害の特徴

- ・切れ・こすれ災害は、休業4日以上計16人うち、丸のこ盤が7人と最も多く、43.8%を占めている。
- ・一方、休業4日未満計7人のうち、カッターナイフ、くぎが2人ずつと、この2つで過半を占めている。

### 傷病性質別

- ・休業4日以上は、骨折が最も多く、53.8%と半数以上を占めている。その次に、創傷が17.1%を占めている。
- ・一方、休業4日未満は、打撲傷が41.9%と最も多く、創傷が24.2%で続き、この2つで約3分の2を占めている。

表 建築工事 疾病性質別

疾病性質	休業4日未満		休業4日以上	
	人数	構成比	人数	構成比
骨折	5	8.1	126	53.8
関節の障害（捻挫，亜脱臼及び転位を含む）	2	3.2	16	6.8
負傷による腰痛	1	1.6	6	2.6
創傷（切創，裂創，刺創及び挫滅傷を含む）	15	24.2	40	17.1
切断	0	0.0	6	2.6
打撲傷（皮膚の剥離，擦過傷，挫傷及び血腫を含む）	26	41.9	26	11.1
その他	13	21.0	14	6.0
合計	62	100.0	234	100.0

### 年齢階層別

- ・年齢階層別にみると、休業4日未満は30歳代が最も多く35.5%を占め、次いで29歳以下が30.6%を占め、この2つで3分の2近くを占める。

表 建築工事 年齢階層別

年齢階層別	休業4日未満		休業4日以上	
	人数	構成比	人数	構成比
29歳以下	19	30.6	48	20.5
30歳～39歳	22	35.5	61	26.1
40歳～49歳	5	8.1	38	16.2
50歳～59歳	10	16.1	46	19.7
60歳以上	5	8.1	41	17.5
不明	1	1.6	0	0.0
合計	62	100.0	234	100.0

### 疾病部位別(参考)

表 建築工事 疾病部位別

疾病部位	休業4日未満		休業4日以上	
	人数	構成比	人数	構成比
顔	3	4.8	1	0.4
眼	1	1.6	4	1.7
頸部	3	4.8	3	1.3
頭部と胴体, 頭部と肢体	3	4.8	10	4.3
頭蓋部	3	4.8	2	0.9
手	3	4.8	6	2.6
指	8	12.9	39	16.7
手首	1	1.6	8	3.4
肩	2	3.2	8	3.4
足	7	11.3	37	15.8
足首	1	1.6	12	5.1
足指	0	0.0	11	4.7
ひざ	5	8.1	11	4.7
もも	1	1.6	10	4.3
背部	0	0.0	5	2.1
胸部	2	3.2	14	6.0
腹部	0	0.0	5	2.1
骨盤部	0	0.0	7	3.0
胴体と肢体	2	3.2	10	4.3
前膊	1	1.6	6	2.6
熱中病	8	12.9	0	0.0
その他	8	12.9	25	10.7
合計	62	100.0	234	100.0

## B．郵便業務

### 事故の型別

- ・休業4日未満は転倒災害が著しく多く、54.5%と半数以上を占めている。
- ・一方、休業4日以上は、交通事故が最も多く42.7%を占め、次いで、転倒が28.1%を占めている。

表 郵便業務 事故の型別

事故の型	休業4日未満		休業4日以上	
	件数	構成比	件数	構成比
墜落・転落	2	6.1	6	6.7
転倒	18	54.5	25	28.1
激突	4	12.1	2	2.2
激突され	0	0.0	2	2.2
はさまれ・巻き込まれ	3	9.1	4	4.5
切れ・こすれ	1	3.0	1	1.1
交通事故	4	12.1	38	42.7
動作の反動・無理な動作	0	0.0	9	10.1
その他	1	3.0	2	2.2
小計	33	100.0	89	100.0
不明(記載なし)	14			
合計	47			

### 転倒災害（起因物別）

- ・転倒災害について起因物別にみると、休業4日以上と休業4日未満は、バイクが最も多く40%近くを占めているなど、似たような傾向が見受けられる。

表 郵便業務 転倒災害における起因物

起因物	休業4日未満		休業4日以上	
	件数	構成比	件数	構成比
バイク	7	38.9	9	36.0
自転車	2	11.1	4	16.0
階段	5	27.8	5	20.0
通路	4	22.2	5	20.0
その他	0	0.0	2	8.0
合計	18	100.0	25	100.0



### 傷病性質別

- ・休業4日未満は打撲傷が著しく多く、55.3%と半数以上占めている。一方、休業4日以上は、打撲傷と骨折が30数%と同程度で、合わせて3分の2近くを占めている。

表 郵便業務 疾病性質別

疾病性質	休業4日未満		休業4日以上	
	人数	構成比	人数	構成比
骨折	7	14.9	29	32.6
関節の障害（捻挫，亜脱臼及び転位を含む）	8	17.0	18	20.2
負傷による腰痛	1	2.1	3	3.4
頭頸部外傷症候群（いわゆる「むち打ち症」）	3	6.4	2	2.2
創傷（切創，裂創，刺創及び挫滅傷を含む）	2	4.3	6	6.7
打撲傷（皮膚の剥離，擦過傷，挫傷及び血腫を含む）	26	55.3	30	33.7
その他	0	0.0	1	1.1
合計	47	100.0	89	100.0

### 年齢階層別

- ・年齢階層別にみると、休業4日未満は29歳以下が最も多く36.2%を占めている。

表 郵便業務 年齢階層別

年齢階層別	休業4日未満		休業4日以上	
	人数	構成比	人数	構成比
29歳以下	17	36.2	22	24.7
30歳～39歳	11	23.4	25	28.1
40歳～49歳	9	19.1	14	15.7
50歳～59歳	7	14.9	23	25.8
60歳以上	2	4.3	5	5.6
不明	1	2.1	0	0.0
合計	47	100.0	89	100.0

## 4.まとめ

### (1)休業4日未満労働災害の特徴

本調査で明らかになった休業4日未満労働災害の特徴をまとめると次のとおりである。

(若年層の労働災害の多発)

- ・休業4日未満労働災害を被災者年齢別にみると、10代20代の労働災害発生率が高い。休業4日未満は28.3%と休業4日以上(全国)17.2%と比べ11ポイントも高い。若年層は、他の年代と比べ、バランス感覚、とっさの動作等の心身機能は高く、同じような状況で災害に巻き込まれたとしても、若年層は受傷程度が小さいのか、他方、若年層特有の災害(例えば、転倒でも若年層特有の転倒があるかなど)があるのか。これらを明らかにするためには、休業4日未満の災害の詳細調査が求められる。

(一酸化炭素中毒、熱中症等の多発)

- ・「一酸化炭素中毒・硫化水素中毒」、「熱中症(脱水症等を含む)」は、死亡災害と比べ休業4日以上の災害の発生割合は低い、逆に休業4日未満の災害発生率が高い。これらは、一旦、労働災害が発生すると死亡災害に直結するといわれているものである。今回、休業4日未満の災害発生率が高い傾向にあることが明らかとなり、今後、「一酸化炭素中毒・硫化水素中毒」、「熱中症」による労働災害の防止を検討するには、休業4日未満データが有効になる可能性がある。

(ワゴン車等の最後部ドアを閉める時に頭をぶつける)

- ・宅配業務、郵便業務、各種営業中、ワゴン車、ライトバン等の最後部ドアを閉める時、風等で自然にドアが閉まった時、ドアに頭をぶつける災害が数多い。最後部ドアを閉めた本人自らの頭をぶつけたものや、隣にいた仲間の頭をぶつけてしまったものがある。

(清掃、点検等作業中、既設物に頭をぶつける)

- ・各種作業中に既設物に頭をぶつける災害が数多い。特に、清掃作業中、点検・検査中の災害が多い。ぶつけた物には、柱、キャビネット、階段、ベルトコンベア、排気ダクト、電気設備、ひさし、突起柵、看板、蛍光灯、低い天井等がある。

(患者、乗客等に殴られる等)

- ・患者にたたかれた看護師、乗客に殴られたタクシー運転手、駅員等、人に殴られた災害も数多く見受けられる。

(自動ドア等に激突)

- ・自動ドアに顔面が激突した災害が数件ある。また、建築工事現場で、はめ込んだガラスに激突した事例もある。

(蜂に刺される)

- ・スズメバチ、アシナガバチ等の蜂に、顔面、手、指、首等を刺された災害が数多い。

(清掃作業中、洗剤、洗浄液が眼に入る等)

- ・各種清掃作業中、洗剤、洗浄液（塩酸、油取りシンナー、エタノール等）が眼に入る災害が数多い。保護メガネを装着せずに作業を行った可能性もあるが、他方、保護メガネを装着していたにも関わらず被災した事例もある。これは、保護メガネの着用により軽度の負傷で済んだとの見方ができるが、一方で、現行の保護メガネでは防護が十分でなく改良が必要となる可能性もある。

また、建設工事においてコンクリート打設作業中、コンクリートやモルタルが眼に入ったものや、伐採作業で小枝を運搬中、小枝が眼に入ったものが数件見受けられる。

(台車等、人力運搬車に手、指等を挟まれる)

- ・台車、パレット、ボックス、ロールボックスパレット等を用いて荷物運搬中やカーゴ運搬中に手を挟まれる災害が数多い。某宅配事業者の労働災害データをみると、ロールボックスパレット（コールドボックスパレット含む）による災害が全体の30%近くを占めており、原因の究明、安全対策の検討が必要である。

(カッター災害)

- ・カッターナイフによる災害が数多い。カッターナイフを用いて、郵便物の束、ダクト、ホース、段ボール梱包、引越用テープ、ベニヤ、プラスターボード、電気コード等を切断中に被災している。

(割れたガラス、陶器等で手、指等を切る)

- ・割れたガラス、陶器に触れて被災するものが数件見受けられる。料理用ガラス、ガラス製ティサーバー、井や皿が割れ、それに接触し被災している。

(建物ドア等を閉める時に挟まれる)

- ・建物ドアを閉めた時に指を挟まれる災害も数多い。自ら閉めた時もあれば、風等により勝手に閉まった時もある。建物の他には、自動車、ダンプ、金庫等のドアに挟まれたものもある。

(金属製資材の端部に触れ手・指を切る)

- ・鉄板の端部等、金属製資材の面取りしていない部分に触り手や指を被災している。

(動物、魚に指を噛まれる等)

- ・漁師が鮫に噛まれる、畜産業者が牛に噛まれる等、動物、魚に指を噛まれるなどの災害も数件見受けられる。

(病院で針が刺さる)

- ・病院で針がささる災害も数件見受けられる。抜糸した針等治療時の針、ゴミ袋等に捨てられていた針に誤って刺さり被災している。感染症に発展するおそれもある。

(釘を踏む災害)

- ・釘を踏む災害が数多い。建設工事現場でベニヤや栈木から出ていた釘を踏む、引越作業中に釘を踏む等が見受けられる。

(建築工事における休業4日未満労働災害の特徴)

- ・熱中症が著しく多い。  
→熱中症の場合、軽度では休業4日未満でおさまるが、重度になるといっきに死亡災害に至るおそれがある。熱中症は休業4日以上の負傷災害には当てはまりにくい可能性がある。熱中症の原因分析、予防対策の検討には、これら休業4日未満のデータ活用が必要である。
- ・熱中症に次いで、切れ・こすれ災害、転倒災害の比率が高い。
- ・事故の型別には足場からの墜落が最も多い。高さ1.5m以下の低所の墜落が見受けられる。(休業4日以上→はしご等が最多)。
- ・切れ・こすれの起因物はカッターナイフ、くぎが半数超(休業4日以上→丸のこ最多)。  
→カッターナイフを使った作業は休業4日未満の典型的災害である。カッターナイフによる労働災害防止対策の検討には休業4日未満のデータ活用が重要である。
- ・疾病性質別には打撲傷、創傷が約3分の2を占める(休業4日以上→骨折最多)。

(郵便業務における休業4日未満労働災害の特徴)

- ・転倒災害が著しく多く半数以上を占めている(休業4日以上→交通事故が最多)。
- ・疾病性質別には打撲傷が半数以上と最多(休業4日以上→打撲傷と骨折各30数%)。
- ・年齢階層別には29歳以下が最も多い。

## (2)休業 4 日未満労働災害データの有用性

今回の調査では、データに限りや偏りはあるものの、上記のように休業 4 日未満労働災害の特徴をいくつか抽出することができた。これらの多くは、発生頻度が不明で受傷程度が小さいことなどから、これまで十分な安全対策が講じられてこなかったものである。

しかし、死亡災害、休業 4 日以上労働災害が減少する中、今後は、更なる労働災害防止のため、このような労働災害にも目を向け安全対策を検討することが必要である。すでに、カッターナイフによる切れ災害、ロールボックスパレット（コールドボックスパレット含む）による挟まれ災害などでは、労働災害防止の重点課題にあげ鋭意対策を進めている企業もあり、受傷程度が小さくても発生頻度が高いものについては、積極的に労働災害防止対策を検討する必要がある。

また、「一酸化炭素中毒・硫化水素中毒」、「熱中症」のように、死亡災害が頻発しているにも関わらず休業 4 日以上労働災害発生割合が小さいものについては、労働災害防止の検討のため、休業 4 日未満データが有効になる可能性がある。

以上のように、休業 4 日未満労働災害データは、今後の労働災害防止対策の検討に有用である。

## (3)今後の課題

今後の課題としては、休業 4 日未満労働災害の詳細分析のためには、現状の当該労働者死傷病報告の様式では、労働災害分析のためのデータ量が十分ではなく、また、データの信頼性に限界があることなどから改善が求められる。

改善案としては、提出する事業者の負担を増やすことなく、労働者死傷病報告の様式に、休業 4 日以上労働者死傷病報告の様式にあるような職員記入欄を加え、職員により事業者の職業分類、事故の型、起因物等をコード等により記入することが考えられる。

【資料編】

休業4日未満労働災害データ

## ■ 資料内容

### 1. データ資料数と災害データ数

データ県	データ資料数	入力した災害データ数
岩手	270	311
東京	1582	1888
静岡	325	399
大分	232	287
合計	2409	2879

### 2. データ処理方法

- ・読めない文字は, ” ” を入力。字数には合わせていません。
- ・休業日数が4日以上のもは入力していません。

### 3. 作成資料の説明

通し番号	データ番号		事業の種類	労働者数	派遣先専従場名			災害発生年月日	休業見込期間 休業日数 (日数)	傷病名	傷病部位	被災者情報			傷病部位	
	main	sub			記入欄の有/なし	記述から判定した場合は1	派遣労働者の場合は1					年齢	性別	職種	番号	名称
1	110001	1	建設業	3	有			H20.1.15	3.0	骨折	右足第一指中足骨	31	1	解体工	212	足指
2	110002	1	貨物自動車運送業	48	有			H20.1.15	3.0	左母指圧挫傷	左母指	48	1	運転手	201	指
3	110003	1	新聞販売業	300	有			H20.1.17	2.0	捻挫	腰椎	51	2	チラシ折り込み	304	腰部(腰椎などを含む)
4	110004	1	食品製造業	210	有			H20.1.25	2.0	切傷	右手人差し指	22	1	調理係	201	指
5	110005	1	道路旅客運送業	118	有			H20.2.19	3.0	背部打撲、左背部挫傷	背部	49	1	運転士	302	背部
6	110006	1	旅客運送業	154	有			H20.1.27	2.0	後頭部打撲、頸椎捻挫	後頭部、腰部	60	1	タクシー乗務員	161	頭部と胴体

- ：報告資料に「派遣労働者の場合は欄に 」欄がある場合は「有」、ない場合は「なし」を入力。
- ：報告資料に「派遣労働者の場合は欄に 」欄がなくても、「職種」欄やその他の欄の記述から明らかに派遣者であることがわかる場合、1を入力。
- ：報告資料に「派遣労働者の場合は欄に 」欄があり が記入されている場合、1を入力。 の欄で1が入力された場合、1を入力。
- ：性別は、1の場合は男性、2の場合は女性。
- ：傷病部位の番号は、左記の表 - 1 の分類番号による。